

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873500086		
法人名	社会福祉法人 愛孝会		
事業所名	グループホーム 福祉の森 聖孝園	ユニット名	本館
所在地	〒319-1305 茨城県日立市十王町高原333-6		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873500086-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年4月27日	評価機関 決済日	平成27年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然豊かな環境の中で、春には花見や山菜採り、秋には柿やプールの収穫など四季折々の楽しみ事が充実しています。山菜採りの時期には地域の方々との交流ももてます。花壇作りも入居者と共に、無理なく参加できるように工夫しています。広い敷地の中、安全に入居者の体調や生活リズムに合わせて、天気の良い日は、ほぼ毎日散歩をおこない体力の維持や気分転換を図り季節を肌で感じていただける機会を作っており、職員とのコミュニケーションの時間としても活用しています。</p> <p>行事としては、施設全体での合同行事とグループホーム独自の行事とがあります。グループホーム独自の行事で、出かけてみたい場所など入居者からの意見を参考にし、内容や行先など年間行事予定を立てています。屋外の行事ではバスハイク、定期的な買い物・昼食ツアーを行っており、積極的に外に出ることで、地域の一員としての生活を可能な限り継続できるよう支援しています。</p> <p>屋内の行事では納涼祭、そば打ちなど季節毎の行事や家族懇談会、懇親会を行っています。家族懇親会では流しそうめん、バーベキュー、寿司パーティーなど、ご家族と共に楽しめる催し物を行っています。また、地域で活動しているボランティアの方々が来訪されコーラス、日舞、ダンス、フラワーアレンジメントなどを行っています。地域住民で構成されているサロン「高原交友会」、民生委員の方々にも行事に参加していただくなど地域の方々との“ふれあい”を大切にし交流を深めています。職員には認知症ケア専門士、認知症介護アドバイザーがいてサポーター養成講座を開催し地域の方に認知症への理解を深めていただけるよう活動しています。グループホーム独自の広報誌を年に1回発行しており、入居者のホームでの活動内容、生活の様子などを掲載しご家族や行政などに配布して地域に根ざし理解を深められるよう取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山々に囲まれた自然環境の中にあり、居ながらにして四季の移ろいを感じる事が出来る。代表者は短期入所介護事業所や通所介護事業所を併設運営し、地域との関わりを重視しながら利用者にあったサービスを提供している。</p> <p>老人会や地域住民による日舞やカラオケ、アコーディオン、ギター、バイオリン等のボランティアグループを受け入れるほか、年2回地域住民で構成するサロンを招くなど、日頃から交流している。</p> <p>夜間想定を含む地震や火災、竜巻、土砂災害など、様々な災害を想定した避難訓練を毎月実施し、実施後は反省点等を話し合って記録に残している。</p> <p>口腔ケアに重点を置き、職員は市の担当者などを通じて実技指導を受け、利用者のケアに当たっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の基本理念とは別にグループホーム独自の理念「なじみの暮らしの継続、地域の一員としての生活」を掲げ取り組んでいる。グループホーム会議や日々の業務の中で理念を話題にあげ常に意識づけ、より良い介護が提供できるよう話し合っている。運営理念を職員一人ひとりが熟知し、名札裏に携帯するほか、事務室や玄関入口、ホールなどにも掲示して常に理念を念頭においてケアにあたっている。職員採用時には運営理念、基本方針、接遇方針等の事業方針の説明をおこなっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務室や玄関、居間兼食堂等に掲示している。 管理者と職員は理念を名札の裏に携帯するとともに、グループホーム会議や日々の業務の中で話し合い、利用者が生き甲斐のある生活が送れるよう実践に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を大切にしており、虫見学や盆踊り、鳥追い祭、保育園や小学校の運動会など積極的に参加している。年に2回、地域住民で構成されているサロン「高原交友会」の方を招いて交流の場を設けている。その際、グループホームの活動の紹介や認知症への理解を深めてもらう働きかけや、多くの意見等が得られるよう取り組んでいる。行事では買い物、昼食会などで積極的に地域へ向向き、地域の一員として交流を深めている。地域住民との関わりとして、年1回の地域奉仕作業（草刈り）に職員が参加している。また、徘徊などで入居者を見かけたときには連絡をもらえるよう日ごろから関わりをもっている。その他、同法人の保育園児が来訪しての交流会を行ったり、老人会や地域住民によるボランティアグループが来訪し日舞やカラオケなどを披露していただきながら交流を交わしている。	事業所は地域とのつながりを大切にし、保育園や小学校の運動会、地域の盆踊り等に積極的に参加したり、「鳥追い祭り」に出かけるほか、年1回地域で行われる草刈りの奉仕作業に職員が参加している。 老人会や地域住民による日舞やカラオケのほか、アコーディオンやギター、バイオリン等のボランティアグループを受け入れたり、年2回地域住民で構成するサロンを招くなど、日頃から地域住民と交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中には「全国キャラバン・メイト」に登録された認知症介護アドバイザーが居て、地域包括支援センターと協働でサポーター養成講座を開催し「地域でどのように認知症の方やその家族に関わった方がいいのか」との内容で寸劇を行った。また、十王地区コミュニティで年に1度開催する「健康福祉まつり」に設けた物忘れ相談コーナーでは、認知症ケア専門士の資格を持つ職員が、認知症のある家族を介護されている方々の相談にのったり、専門的な分野からの助言をし、地域の方に認知症への理解を深めていただけるよう地域に出向いて活動をしている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成26年度から、運営推進委員の知見者兼地域代表を1名から2名に増員した。会議では事業所からサービスの実際、取り組み、地域との交流についての報告や話し合いをし、サービスの向上ができるよう努めている。地域包括支援センター職員も参加している。会議の中で年2回実施している家族懇談会と運営推進会議を合同で開催しており、家族から質問や意見、要望など活発な話し合いがなされサービス向上に活かしている。そのほか、運営推進会議とは別に、「高原交友会」との交流会を年2回行っており、多くの地域関係者が集う場を設け、交流を深めながらサービスの向上に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表などの参加を得て2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の現状や入居状況、行事の報告などを行うとともに、感染症対策や災害対策など、時期に合ったテーマを取り上げ、意見交換を行っている。 年6回の運営推進会議のうち2回は家族懇談会と合わせて開催し、家族等から活発な意見や要望が得られており、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる課題などあれば気軽に問い合わせ、相談し解決を図っている。管理者は日立市高齢者政策推進会議の委員や介護認定審査会の委員を務めており市町村との関わりを密にしている。市主催の事業者懇談会にも参加して、市・他事業者との交流を図っている。日立市健康づくり推進課の協力で、職員向けの口腔ケア実技指導を毎年1回実施しており、入居者の生活の質向上に向けた口腔機能の維持・向上につとめている。	市担当者は毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は市の高齢者政策推進会議や介護認定審査会の委員を務めており、市と協力関係を築くとともに、市主催の事業者懇談会に参加して積極的に市や他事業所と交流を図っている。 口腔ケアについて重点を置き、市の担当者などを通じて実技指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修、グループホーム会議で定期的に身体拘束に関する勉強会や研修などを行っており、身体拘束による入居者が受ける身体的、精神的弊害を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は入居者の行動を制限することのないよう、出入り口には鍵をかけることなく生活しているが、夜間に限り、一般家庭同様、安全のため正面玄関と裏ロドアのみ鍵をかけている。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、職員は併設する特別養護老人ホームで定期的実施する、身体拘束排除に関する内部研修を受講し、禁止の対象となる具体的な行為を理解している。 日中玄関は施錠をせず、利用者の自由な生活を支援し、外出希望者には職員が付き添っているが、万が一の場合には、併設する事業所や地域住民から通報をもらえる体制になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて「高齢者虐待防止」に関する勉強会を行い、虐待防止の意義を学んでいる。併設の地域包括支援センターは、日立市高齢者権利擁護推進協議会にも参加しており、適宜必要な情報を受けることが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の活用が必要になる対象者も無く、理解や浸透は十分ではない。現在までに必要とされる対象者はいないが今後、必要とされる対象者が入居した際に速やかに活用していけるよう、職員の周知に努めたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族・入居者には口頭・書面両方で十分な説明を行い、納得いただいたうえで契約を取り交わしている。特にグループホーム内での生活をご理解いただけるように十分な時間を持つことに配慮している。利用料は詳細が示されている料金表を掲示し、説明、個人情報に関すること等も十分に説明している。入居契約時には、解約に関する説明も行っている。退居の際は契約に基づき、介護支援専門員・主治医も含め、入居者・ご家族と十分に話し合い、納得のうえで行い、退居先の支援も行っている。また、再入居への対応も行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置及び、ご意見受付窓口を設置している。グループホーム内に苦情の窓口を明示したほかに、ご意見箱も設置している。また、ご家族、入居者に毎月お渡ししている「お便り」にもご意見・要望欄を設けている。年2回の家族懇談会では、運営推進会議を合わせて開催し意見、要望などをいただける機会を設けている。毎年3月に実施している家族懇談会では、活発な意見交換が出来るよう、ご家族に事前アンケートの協力をお願いしている。	重要事項説明書に第三者委員の苦情相談受付窓口及び担当者を明記しているほか、意見箱を設置している。 運営推進会議に利用者や家族等の代表が出席するほか、年2回運営推進会議に合わせて家族懇談会を開催するとともに、毎年3月に実施している家族懇談会前に家族アンケートを行い、その結果を踏まえて懇談会では意見交換が行われ、出た意見等を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているグループホーム会議では、管理者も参加し、職員の意見を取り上げ、協議している。必要に応じてミーティングも随時行い、接遇や業務に関する意見や要望などが出やすい雰囲気作りに配慮しながら、発言する機会を設けている。	管理者は毎月開催するグループホーム会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けるとともに、「気づきメモ」を使用して職場環境や業務について気づいたことを報告するようにした結果、「利用者への接遇」や「夜勤者の負担軽減」についての提案を受け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員全員に対し資格取得に向けて意欲が引き出せるように、勤務調整しながら努めている。勤務年数や日々の勤務実績などに応じて昇給することにより、本人のやる気を引き出す配慮をしている。研修会への参加も促している。年1回、職員へのアンケート調査を実施し、各職員の悩みや気づきを引き出しチームワークの強化を図り、働きやすい職場となるよう努めている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内において、内部研修の年間計画を立て、月1回の職員会議で実施している。施設外研修はパート職員も含め積極的に参加している。また、職員会議の際には個々に受講した内容について報告を行っている。グループ会議では奇数月に、事例をもとに勉強会を行っている。管理者がグループ会議にて職員への助言、指導、最新情報の提供をしている。職員の援助技術の向上を年間の事業計画の目標に掲げ、実践を重視した勉強会を行ったり、気づきメモを活用し職員の気づく力、見極める力の向上、習得につとめ介護専門職としてのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会などに参加した際は、情報交換やネットワークづくりに心がけている。更に、市主催の事業者懇談会へ参加した際は、グループホーム間での情報共有、職員が抱える悩みなどの意見交換をするなど交流を図っている。同法人の多事業所間で、合同会議や勉強会を定期的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本人、家族から出来るだけ要望等の情報を聴き、安心した生活を送れるようケアプランを作成している。これまでの生活状況もよく確認するようにしている。入居前に居宅サービスを利用していた方であれば、担当の介護支援専門員から情報提供を受けるようにしている。また、グループホームの生活に不安や心配事が生じないようによく説明し、安心、納得してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や相談時には、併設の地域包括支援センターの職員も交え、家族などの困りごとや求めていることをよく聴くようにしている。また、入居契約時には、意向を良く確認し、家族が抱えている不安等があれば、一緒に考え協力できるよう努めている。グループホームの運営方針や基本理念、日々の過ごし方や生活を伝え、内容を理解したうえで、利用していただけるようにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族の現状、要望などを担当職員や介護支援専門員が、よく話を聞き、いまだどんなサービスが必要なのかを多面的にとらえたうえで、その方にとって最善の支援を提案し、必要な助言をしている。同法人の中に地域包括支援センターが設置されており必要時には協働している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を第1に考え、出来ることは行っていただき達成できたときは共に喜ぶ事を全職員が心がけ、馴染みの関係を築いている。人生の先輩として教えていただく事も多く、入居者の声かけや励ましで職員が癒される事もある。支援しているという意識を持たず謙虚な気持ちで協働しながら生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が定期受診の付き添いをする際は、本人の情報を口頭や書面で伝えたり、家族が付き添わない場合は受診後の報告をして常に情報の共有化に努めている。入居者個々の近況報告や気づいた事、行事予定など日頃の暮らしぶりを電話連絡やグループホーム便りでも報告している。また、家族にも行事などに参加してもらい家族、職員と一緒に入居者本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活環境、交友関係が入居後に大きく変わることなく継続的な交流がもてるよう、家族などに理解と協力を求めているが本人、家族共に支援を求めないのが現状である。職員は、いつでも入居者の気持ちに寄り添いながら必要時には支援できるよう心掛けている。	職員は家族等や親せき、知人などが気軽に面会に来てもらえるように働きかけ、面会時にはお茶を出してゆっくり過ごせるよう配慮している。 近くのパノラマ公園へ花見に行ったり、家族等の協力を得ながらお盆や彼岸時の墓参りに出かけるほか、自宅への外泊や事業所の電話を使用して、家族等に連絡ができるよう支援するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等では、内容によって入居者全員が協力して行なえるよう支援したり、気の合う同士の小グループ分けで関わりを深められるよう支援している。気の合う入居者同士で会話が弾むよう、時にはトラブル回避、悪化防止のため座席の配置換えを行う場合もある。職員は、状況や必要に応じて入居者同士の関係が良好に保てるよう、さりげなくフォローしたり時には介入し、共同生活が円滑に運ばれるよう働きかけている。入居者の中には同地域出身者で昔から顔なじみという方が多く、自然と会話も弾み良い関係性が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方など、定期的にお見舞いに伺い、経過を見守り今後の支援相談などアドバイスをしている。他サービス利用が必要な場合は相談を受けたりアドバイスするなどして支援している。退院後の再入居への対応も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族、本人に意向・要望などを、そのつど確認してフェイスシートに記載し、サービス計画を立案している。また日々の生活の中で本人の思いを汲み取って、一人ひとりにあった暮らしができるよう会議などで検討し、ケアに反映できるようにつとめている。気づきメモに抽出された個別情報などを参考にして、アセスメントの視点を広げている。	入居時のアセスメントで、利用者の生活歴や意向を把握するとともに、日々の関わりの中で行動や表情から利用者の思いや意向を把握している。 把握した思いや意向は「ケア記録」に記載し、全職員で共有している。 把握が困難な利用者の場合は、家族等に確認しながら思いを汲み取り、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族から生活歴などの情報を聞き、フェイスシートやアセスメントシートに記載し、その情報をもとに、その人らしい暮らし方が継続できるようにつとめている。	/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気づきを活用し、その人らしさを尊重した個別ケアの提供ができるようにつとめている。ケアを提供するために、その人の生活歴、性格、嗜好、思い、分かること、できることなど多くの情報を集めてアセスメントし、会議などで話し合っている。	/	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族に意見や要望、生活に対する意向などを聞いたうえで、必要に応じて医師や管理栄養士などの助言をもらい、カンファレンスを行い、気づきや意見アイデアなどを活かし実情に合った介護計画を作成している。基本的には3ヵ月ごとに定期的な見直しを行っている。モニタリングの際は実施評価表を作成し目標達成度を見ながらより現状に即したケアを行えるようつとめている。入居者の状況変化があった時にも本人、家族、必要な関係者と話し合い、認定調査票、主治医意見書なども参考にしてカンファレンスを行ってプランの見直し、変更をしている。	介護計画は利用者や家族等の意向や希望を取り入れ、居室担当職員や介護支援専門員、計画作成担当者などでカンファレンスを行って作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、現状に即した介護計画になるよう見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが用意してあり、日常の暮らしの様子や本人の言葉、健康状態（食事、水分、排泄状況、血圧、体温、SP02など）を測定し記録して実践や介護計画の見直しに活かしている。情報が個別ファイルに埋もれることの無いよう、業務日誌に特記し常に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院受診（定期受診も含む）の支援、希望者の歯科往診の支援を行っている。 職員は労力を惜しまず、入居者の望みや必要と思われる対応を常に考え支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアでコーラス、日舞、ダンス、三味線など地域の方々から来園され交流を深めている。フラワーアレンジメントでは個々の力を発揮し、楽しみ事が増えている。また、昼食ツアーや行事などで外へ出かけ地域の方々や接する機会を設け支援している。たかはら自然塾や近隣の農園、小学校などに向向くなど、地域行事へは積極的に参加している。その他に年2回の消防署立会訓練、警察官の立寄り、地元消防団の夜警の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診する際、本人の状況など必要な情報提供を行い、医師からの助言や支援について留意することなどは持ち帰り、職員間で共有している。 入居前からのかかりつけ医を大切にし、家族、医療機関と連携を図っている。かかりつけ医以外に受診の際は、これまでの経緯や本人、家族の意向、または専門性などを勘案し、適切な医療が受けられるよう配慮している。	利用前からのかかりつけ医を大切にし、利用者や家族等の意向を踏まえ、希望するかかりつけ医を確認している。 今までのかかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本としているが職員が付き添う場合もあり、受診の際は健康状態を記載した情報提供書を持参して通院し、受診結果は業務日誌及び介護記録に記載し、全職員で共有している。 併設する特別養護老人ホームに週2回協力医療機関の医師による訪問診療があり、当事業所でも必要に応じて受診が出来るようになっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況を把握し、職員間で情報は共有している。施設内（特養）の看護師も含め気軽に相談でき、24時間連絡可能な体制を確保している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、サマリーの様式で、普段の生活の様子や留意する事項の情報を提供し、なるべく対応を変化させないように注意している。家族や医療機関と連携を図りながら、入院中の状況把握、情報を共有し、早期退院に向け、医療機関の相談員や主治医、家族と話し合いを行っている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度や終末期の対象者はいないが、病状が不安定で急変しやすい入居者へは、家族や医療機関と連携を図り、本人の状態把握、緊急時の対応など方針を決めながら支援している。特養の入所待機者で、既に順番が迫っている入居者もいるが、家族の希望もありできる限り馴染みの場所で生活していただけるようチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習の修了証を所有し、定期的に更新している。毎月の防災訓練、勉強会などで技術の向上や維持に努めている。緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時対応の連絡方法なども周知徹底している。また、マニュアルを見やすく掲示して対処している。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体での訓練とし、年4回の地震、年3回の火災年1回の竜巻、年1回の土砂災害、年2回の消防署立会い訓練、年1回の夜間を想定した火災訓練を行っている。定期的な訓練を実施することで、非常時に備えている。また、警察官の立ち寄り、地元消防団の夜警の協力もある。火災発生時の自動通報先の1つに、1番近い地元消防団宅を指定している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報保護に関する研修を職員会議などで全職員が定期的に受けている。運営理念である「人格の尊厳を守り」を職員は意識しながら、さりげないトイレ誘導、言葉かけや対応をしている。グループホーム会議で、接遇に関する内容を多く議題にあげ常に確認し合っている。	法人全体でプライバシーや個人情報保護に関する研修を実施し、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレや入浴誘導時には、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に配慮している。 個人情報に関する書類は、事務室内の書棚に保管し、取り扱いに十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面ごとに、本人に分かりやすく言葉かけし、本人の声を聴き意思を確認したうえで行動に移している。また、会話能力、自己決定能力不足の入居者に対しては、入居者のしぐさや表情を見逃さず言葉かけし、できる限り自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れはあるが、起床、就寝時間、食事にかかる時間など、本人のペースで行えるよう対応している。何事も入居者の声に耳を傾け、職員は申し送りの中で、その日の様子、個々の意向に沿った支援ができるよう確認、記録し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切にしながら衣類の調整、整容をさりげなく支援している。起床時の衣類選びは基本、本人に選んでもらうが、困難な入居者へは、好みのものをいくつか用意し選択できるように支援している。理美容は、地域の理容、美容院が月3回、来園していて希望者は予約利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りだけにこだわることなく、多面に充実した内容で支援したいと考えており、現在は味噌汁とおやつ作り、誕生会や行事での昼食作りを一緒に考えたり作る段取りを共に行っている。配膳、後片付けなどは個々の力を活かしながら、当番制で職員と一緒にいる。天気の良い日は広大な敷地を活用し、ピクニックを行い楽しみをもって食事ができるよう支援している。定期的に昼食ツアーと称して外出に出かけているが、その際、入居者の嗜好に沿って行き先を決めている。団子作りやそば打ちなど一緒に作る楽しみと季節に合わせ旬のものを味わって頂けるよう支援もしている。	利用者は能力に応じて、当番制で食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。 職員は利用者と同じテーブルを囲み、声かけや介助をしながら楽しい雰囲気の中で食事が出来るように支援している。 食事が楽しみなものとなるように、広大な敷地内でピクニックを行ったり、定期的に昼食ツアーと称して外出に出かけるほか、誕生会や敬老会などの行事食、団子作りやそば打ちなどを利用者と職員で一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーについては、管理栄養士に指示を受けている。カロリー制限者は医師の指示を受け対応している。食事形態は常食、一口キザミ、キザミ食と分け、身体状況に合わせた調理法で提供している。自力摂取が困難な入居者へは、どのように提供すれば良いかを家族とともに考え食事方法や形態、食事時間等、個々に合った方法で提供している。摂取量・水分量は記録し把握している。嗜好や体調に基づき個別にメニューの変更をするなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ブラッシング（歯・歯間・舌）からデンタルフロス等でのうがいの順番で口腔ケアを個別に行っている。自力で行える方へは促し、見守り、仕上げ磨きのサポートを行い、自力で行えない方へは、一緒に行い義歯の洗浄まで丁寧にして、口腔内を衛生的に保てるよう支援している。毎食後、外出後にうがいや手洗いを促し、口腔内の清潔、感染予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表、個人記録に本人の状況を記録し、昼夜、個人のリズムに合わせたトイレ誘導や見守り、必要に応じてポータブルトイレの設置など個々に合わせた排泄ができるよう、自立に向けた支援をしている。布パンツやパッドの使い分けをして、排泄機能の低下を予防できるようにも取り組んでいる。	排泄チェック表をもとに利用者の排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって声かけや誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援している。 利用者や家族等の希望により、居室にポータブルトイレを置いて夜間に利用するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。 利用者に合った使い易いおむつやパッドについてフロア会議で話し合うとともに、日中はなるべく布パンツを使用しながら過ごせるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では毎朝、温めた牛乳の提供や繊維質の多い食材を取り入れている。運動面では、体操や天気の良い日には毎日散歩をするなど、日常的に取り組む、自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は、月水金で16時から実施している。トラブルが無く、気の合う同士でゆっくり入れるよう配慮して行っている。入浴日以外でも希望される方の入浴実施、夏場は毎日シャワー浴なども行って、個々のペースに合わせて、ゆっくり入って頂けるよう支援している。毎回入浴剤を入れリラックスして入浴できるよう配慮している。また、ゆずや菖蒲、桜やバラの花びらを入れ季節を味わっていただいている。	入浴は2日に1回夕方に行くことを基本とし、本館と新館で曜日を変えて実施しているが、希望に応じて入浴日以外でも入浴が出来る体制となっているほか、気の合う利用者同士でゆっくりと入浴する場面もある。 毎回入浴剤を利用したり、季節毎にバラの花びらや菖蒲、柚子などを活用して入浴が楽しみなものとなるよう工夫をしている。 入浴を拒む利用者には、声かけや誘導のタイミングを変えて入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜間の様子を確認、記録し職員間で申し送り一人ひとりの就寝時間、睡眠状態を把握している。状態によって居室で休むことを促すが、現在は、ホールで皆と一緒にテレビを観たり音楽を聴くなどして時間を過ごすことが楽しみとなっていて、居室に戻って休息を取りたいという方は居ない。個々に合わせた環境で気持ちよく休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル内に、薬剤の説明書（副作用、用法用量など）を保管し、全職員が内容を理解している。薬の変更に関しては個人ファイル、業務日誌に記入して職員が周知できるよう努めている。状況の変化を見逃さず、必要に応じて主治医、家族に相談し、適切な見直しができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から生活歴などの情報を収集しながら、草取り等外仕事の得意な方、家事が行える方にはお願いし、暮らしの中で楽しみながら役割が持てるよう支援している。縫物や絵画、ジグソーパズル、読書など趣味を活かして楽しみごとへの支援も行っている。花壇作りや花の手入れをする方など、戸外での楽しみごとも支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・昼食ツアーその他の行事などで外に出る機会を多く設けている。散歩は毎日の楽しみでもあり、希望に応じてワゴン車で敷地内外をドライブしたり、東屋でお茶会をするなど、積極的に戸外に出かけている。施設全体の行事や地域のイベントなどにも積極的に参加している。気の合う同士で喫茶店へ出掛ける事の支援をしていたが、今は出掛けるより家でゆっくりしたいと希望が変わっているため個別の喫茶店外出はない。	天気の良い日には、利用者の体調に配慮しながら広大な敷地内を散歩し、東屋でお茶を飲んだり、希望に応じてドライブに出かけられるよう支援している。 年間計画を立て、初詣や季節の花見、毎月行う買い物や昼食ツアーなどのドライブ外出は、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族の希望により、小口現金にて管理している。買い物に出掛ける際は本人に財布を渡し自由に買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話が気軽にできるよう配慮している。入居者の希望時には、代筆も行い家族との交流を支援している。公衆電話を設置しており、いつでも利用できる環境も整えているが入居者自ら利用する方は現在はいない。家族から電話が来た際は、ゆっくり話ができるよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から自然の光が入るよう工夫をしており、カーテンなどで調整している。また、BGMやテレビ、カラオケなどの音は職員が随時、状況に合わせて調整している。家庭的な雰囲気作りを全職員が念頭におき家具や小物も慣れ親しんだ温かみのある物に揃えて雰囲気作りをしている。入居者や来園されたご家族などが見やすいよう廊下に行事の写真を掲げており、会話が弾みほっとくつろげるよう工夫している。玄関や室内に季節の花を飾ったり、季節の行事ごとにさりげなく飾り付けをして四季を感じる配慮もしている。	居間兼食堂は大きなガラス窓から自然の光が入り、明るい設計となっており、夏にはよしずを利用して一定の温度に保つとともに、窓からは庭や山の景色を眺めたり、四季の移ろいを感じる事ができる。 季節の花や観葉植物、利用者が制作した作品、鯉のぼりなどを飾り、室内でも季節を感じる事ができる。 館内放送やテレビの音量に配慮するほか、居間兼食堂の一角の和室には掘り炬燵を設置したり、廊下のスペースにソファを配置し、利用者が思い思いにゆったりと寛げる環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、食堂テーブルの他に、ホールや廊下などにソファや椅子を多く置き、一人でゆっくりしたい方、気のあった少人数で談笑する方々など、思いおもいの時間を過ごせる空間を数ヶ所確保している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際、入居者、家族への説明の中で、なじみ深い物、使い慣れた物の利用をお願いしている。家族が来園された時にも継続的に働きかけ、こたつ、整理ダンス、アルバム、趣味の道具など持ってきていただいていることも多い。自宅で生活されていた環境に少しでも近づけられるよう本人の癖や習慣を考慮して、ベッドやタンス等の配置を工夫し、入居者が安心して過ごせるよう配慮している。	居室は畳敷きとフローリングの部屋があり、箆箆や洗面台、エアコン、カーテンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談し、使い慣れた寝具類やテレビ、鏡台、籐椅子などを居室に持ち込むとともに、利用者が制作した作品やカレンダー、時計、趣味の小物などを飾り、利用者それぞれの生活スタイルに合わせて居心地よく暮らせるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の現在の状況に合わせてながら、居室にポータブルトイレを設置している方がいる。物の置き場所が見やすく分かるように明示し失敗のない配慮もしている。また和室、洋室を設けておりベッド、布団の利用を本人、家族の意向をもとに提供している。居室の表示は造花や入居者の作品などを居室内外に飾り、目印にしている。トイレや居室の表示は入居者の状態に合わせて大きく目立つ物や、さり気ない物を工夫し対応している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1,ほぼ全ての利用者の 2,利用者の2/3くらいの 3,利用者の1/3くらいの 4,ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1,毎日ある 2,数日に1回程度ある 3,たまにある 4,ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1,ほぼ全ての利用者が 2,利用者の2/3くらいが 3,利用者の1/3くらいが 4,ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1,ほぼ全ての利用者が 2,利用者の2/3くらいが 3,利用者の1/3くらいが 4,ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1,ほぼ全ての利用者が 2,利用者の2/3くらいが 3,利用者の1/3くらいが 4,ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1,ほぼ全ての利用者が 2,利用者の2/3くらいが 3,利用者の1/3くらいが 4,ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1,ほぼ全ての利用者が 2,利用者の2/3くらいが 3,利用者の1/3くらいが 4,ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1,ほぼ全ての家族と 2,家族の2/3くらいと 3,家族の1/3くらいと 4,ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない